

平成 29 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試 A 日程 試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 60 点、問題 2 が 40 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設 問〕 1

Xは、Aとともに、交通事故を装いAに傷害を負わせて保険会社から傷害保険金（入院給付金）を詐取することを企て、Aの承諾を得て、Xの車をAの車に追突させた。Aはこの追突事故により約1か月の通院加療を要する腕部骨折の傷害を負った。Aの負った傷害は、XとAとが想定した範囲内のものであった。

Xの罪責を述べなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設 問〕 2

Yは、Bを困らせる目的で、Bが占有する自転車を無断で乗り回し、2時間後、元の場所に返却した。その間、Bは、自転車がなくなっていることに気付かなかった。

Yに窃盗罪（刑法235条）は成立するか。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の事例を読んで、設問に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

[事 例]

警察官甲は、Vが公園のベンチに置いていた茶色の鞆（黒色財布が入っていたもの）をA男が持ち去ったという窃盗被疑事件につき、A男宅を捜索して証拠収集をするため、裁判官から捜索差押許可状の発付を受け、A男宅の捜索をし、茶色の鞆1個及びV名義のクレジットカード1枚を発見してこれらを差し押さえた。なお、上記捜索差押許可状には、差し押さえるべき物として「茶色の鞆、黒色財布、その他本件に関係ありと思料される一切の物件」と記載されていた。

[設 問]

警察官甲が行った本件差押えは適法か。捜索差押許可状の有効性を踏まえつつ論じなさい。

《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

設問 1 は，傷害の事案を通じ，被害者の承諾が犯罪の成否に与える影響について問うものである。

設問 2 は，窃盗の事案を通じ，不法領得の意思の要否・内容について問うものである。

問題 2

本問は，差し押さえるべき物の欄に「その他本件に関係ありと思料される一切の物件」という包括的文言が記載された搜索差押許可状の有効性を問うものである。